

中台育心園 ニューズ

第193号

発行日 平成29年10月5日
 発行者 社会福祉法人 みのり会 中台育心園 園長/千葉桂資
 〒311-2213 茨城県鹿嶋市大字中431-20
 電話 0299 (69) 2222
 FAX 0299 (69) 2237
 ホームページ <http://nakadaiikushinen.jp/>

今月の生活目標

【単 元】

日常生活



【目 標】

- 生活と仕事の関連を理解し、皆と協力しながら、自主的に動けるようにしましょう。
- 自分の役割りと責任を果たすことができるようになりましょう。

中台育心園の伝統を絶やさずに

相談支援専門員 千葉 浩子

中台育心園は昭和55年に開設しました。今年の5月で37歳になり、例年のように紅白饅頭でお祝いしました。「私と同じ年齢です」と、主任職員が笑顔で年齢公開をしていました。因みに、利用者の最高齢が84歳、一番の若者が21歳です。開設当初から利用している方も大分減ってきました。そして、開設当初から勤務の職員は誰もおらず、中台育心園の歴史をリアルタイムで観てこられた方は、今の理事長ただひとりになってしまいました。

私が入職したのは、昭和62年で、既に中台育心園の運営の基礎ができあがっていた頃でしたが、諸先輩方の教えを頂きながら、社会福祉法人みのり会の理念「一市民として」「地域社会とともに」「生きる喜びの共有」を謳い、家庭的な雰囲気大切にしながら、中台育心園の支援目標として「協力」「忍耐」「自立」を掲げて支援の心を繋いできました。

開設当初からずっと続けてきている活動があります。その活動は、茶道の世界のように「志のある者がひとつひとつの所作を人づてに伝え、その志を引き継ぐ者がひとつひとつの所作に共感し、吟味し、次に継い



絶妙な焼き加減こそ (パーベキュー)

でいく」事に繋がっているような感覚があります。「茶の道」の所作や設えにはしっかりとした根拠があり、伝統として引き継がれてきた所であると思われれます。

中台育心園において伝統芸能のよう受け継ぎ、引き継いでいきたい活動とは「ミュージック・ケア」と「模擬演奏」です。

日本の音楽療法の草分け的存在の一人である、故・加賀谷哲郎先生が、中台育心園に伝授して下さった「加賀谷式集団音楽療法」(現在はミュージック・ケアとして定義しています)を基礎として生まれたのが「模擬演奏」という演奏形態です。この演奏形態は、ミュージック・ケ

アのメソッドのひとつとして「即興楽器演奏」として位置づけられている方法です。音楽技術を高める為の教育や訓練として楽器を使用するのではなく、音楽をより積極的に楽しむためやその楽しみを増幅させるために楽器を利用します。

楽器は模擬楽器(バイオリンやラップ、笛などを模ったもの)と様々なリズム楽器(初めは単音から)を使用し、オーケストラのように楽器のパートごとに整然と並び、音源(CD)の楽曲を聴きながら、奏者がそれぞれの形で自分を表現することを楽しんでいきます。更に、インザツも取り入れた指揮者の誘導の下、グループ(奏者)が一体になって演奏を楽しみます。「アインザツ」とは、奏者が楽曲に合わせて一拍目からタイミングよく音を出した演奏ができるような働きかけの事で、この働きかけによって、より成就感や達成感を得る事ができ、「もっと演奏したい」「みんなと一緒に楽しみ、味わいたい」という意欲や集中力も身につけていきます。この演奏方法の特徴としては、集団としてのまとまりを体感しながらも、個も尊重して、お互いに合わせ合ったり、聴き合ったりして認め合う事を心地良いと感じられる事なのではないかと思っています。

CD(音源)から流れる楽曲を聴くだけで鑑賞する事は難しいと思わ

れますが、楽曲に合わせて自分のパートの楽器で自由に表現する事で、より積極的に鑑賞する事に繋がります。そして、音楽を鑑賞する事で現れてきた情動を通して、互いに気持ちを伝え合い、コミュニケーションしています。その結果、集団活動が心地良く、また感動も共有できるのではないかと思います。時間も空間も共有する「共振」する状態になれる事もあります。そんな時は、なんとも表現し難いようなグループのまとまりを、個々が感じ取りながらオーケストラの一員として身を委ねている状態になっているのではないのでしょうか。この感覚を皆で味わう事ができる「模擬演奏」の魅力が、開園当初から引き継がれている所以なのかもしれません。これからも、中台育心園の伝統を絶やすことなく、引き継いでいきたいと思えます。

まだ「模擬演奏」活動をご覧になっていない方は、毎週金曜日に実践していますので、是非見学にいらしてください。そして一緒に体感してみませんか？

〈引用文献〉

・宮本啓子2012「ミュージック・ケアーその基本と実際」川島書店



無限の可能性

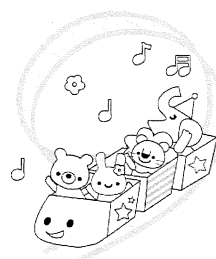
生活支援員 祐尾 恵子

去る7月13、14日、関東地区知的障害福祉関係職員研究大会に参加させていただきました。様々な分野の講義や発表を拝聴した中で、印象に残ったのは、「我が事、丸ごと」という言葉でした。「我が事」とは、他人事を自分の事に変えていくような働きかけをする機能の事で、「丸ごと」は、課題を含め、一旦全てを受け止める場所を指しています。大会は分科会と全体会の二部構成になっていましたが、どの発表も共通して「我が事、丸ごと」の理念を訴えていました。

今日の日本は超高齢化が進み、今後医療、介護の費用が莫大になることが予想されます。それらにかかるサービス料だけでなく、携わる人々の人件費も増大する事となるでしょう。今、少しでも医療、介護の金銭的負担を軽減するために、「就労支援」が注目されています。都市部と比べて人口の少ない地方にとって、医療、介護の担い手の確保は死活問題です。人手不足をカバーするため、地域全体で児童・障害者・高齢者が分野を超えて同じ場所でサービスを受けられる仕組みを作った自治体があります。その地域では高齢者が障害福祉サービスを受けられる

ようになりました。要介護1の方が障害福祉サービスの「就労継続支援B型」を利用したところ、要支援まで症状が改善されて以前のように身の回りの事ができるようになったという事例が紹介されていました。自分で自分の事を行ったり、働いたりする事が生きがいになり、自立を促す。そして、医療、介護の費用軽減にもつながっていく、という一石二鳥のケースでした。

ますが、「我が事、丸ごと」は、地域に埋もれている無限の可能性を示している良いスローガンだと感じました。この言葉が社会の常識となる事が、これからの時代を明るく照らす道だと信じ、私も尽力していきたいと思っています。



事務所より

『笑顔の秘密』

事務員 日向寺 幸子

「どうしていつもぶすくれた顔をしているの?」。小さい頃、母によく言われた言葉でした。私にしてみれば、怒っているわけでも不機嫌なわけでもなく、普通にしているだけの事。ただ、一人っ子のせいか内向的な性格で、素直に気持ちを表現するのが苦手だったのです。そんなある日、ふと母の言葉を思い出しました。そして、意識して笑顔でいるように心がけてみました。すると不思議な事に、引っ込み思案だった私にも少し積極性がでてきたように感じました。それに連鎖するように友達も増え、気が付くと自然に笑顔でいられる事ができるようになっていました。笑顔は、自分を変え、周りの皆も楽しく、幸せな気持ちにしてくれました。「暗い顔をしていても苦悩から解放される訳ではありません。負のパワーを増幅させるだけです。苦しい時ほど笑っていてください」。テレビで聞いたこの言葉は私の経験を裏付けてくれるようでした。

最後に、私のしている笑顔の工夫を紹介します。それは、「夜、布団に入って目を閉じて、今日一日あった楽しい事を思い出してから寝る」事です。みなさんも是非試してみてください。きっと翌朝「はっぴー」な気持ちで目が覚めますよ。

グループだより

★ひまわりグループ

『有言実行。It's Cool!』

去る8月6日、中台夏祭りが開催されました。直前に台風接近のニュースがありはらはらしましたが、当日は雨も降らず、皆さんの願いが天に届いたようでした。

私が担当したのは、ゲームコーナーの輪投げ。今年は難易度を高めに設定して、9番に入れるのはかなりのテクニクを要する仕様でした。そこに大谷さんがやってきました。長く伸びた9番の棒を見て、大谷さん、「9ね。」とぼそっとつぶやいていました。そして、一投目。

なんと！見事9番にイン！すごいですよ大谷さん！私の方が盛り上がったしまいました（笑）。当の大谷さんはあくまで冷静に、続けて2、3投目にチャレンジしていました。残念ながらその後はポイントゲットにはならなかったのですが、狙って入れた1投目のカッコよさに、『最高にクールで賞』をあげたいと思いました。
（豊田（惇））

★すみれグループ

『炎天下のお楽しみ外食』



潮来花嫁さん♡（お楽しみ外食）

去る7月11日、お楽しみ外食がありました。参加者は村田さん、辻さん、栗原さん、茂木さんの4名。合計年齢301歳。茂木さんは、毎年この外出を楽しみにされていて、「今年はいっつ？」としきりに聞きにきていました。日程が決まり、服を準備していると、茂木さんは自慢のオシャレ着を何枚も出してきて、「これ着ていく」「こっちがいいかな」と、わくわくが止まりません。

当日は猛暑日でした。カンカンに照り付ける日差しの中、見送りの私はシルバーさんたちの体調が心配でなりません。ですが、4名の皆さんは暑さなんてなんのその。むしろいつもよりも元気な様子で出かけて行きました。

帰ってくる時、口々に食べた物、行ったところ、見たものなどを報告してくれました。お昼ご飯は、皆さん懐石御膳をべろりと平らげていた

そうです。合計年齢301歳の年の功は、暑さをはねのける体力にも表れているのだなと、とても頼もしく思いました。また来年、今度は一緒に行きたいですね。
（宮崎）

★あざみグループ

『大好物は梵天パン♡』

朝、出勤すると一番初めに聞こえる声は、大野さんの『おはよう』です。私の前まで来て、ニコニコ笑顔で元気に挨拶してくれます。そして、退勤時にもやっぱり大野さんは『さようなら』の挨拶をしに来てくれます。私の一日は大野さんと挨拶を交わす事から始まり、大野さんの挨拶で終わるのです。

そんな大野さんの大好物は・・・、そう！梵天パン！毎週金曜日はおやつにパン工房梵天で作ったパンが出ます。大野さんは朝から待ち遠しいようで、いつもの3倍増しの笑顔です。朝の挨拶で「おはよう」より先に「パン！」と言ってしまう程です。特にあんパンが大好きで、朝の挨拶が「あんパン！」になってしまいます（笑）。一日のスタートが「あんパン」で始まる日もあり、そんな日は大野さんにつられて周りのみんなも笑顔になってしまうのです。
（横田）

★なでしこグループ

『ハッピーバースデー♪』

8月13日、私の夜勤明けの日の朝の事です。朝の検温が終わると中川さんが私のところに来て、「今日ね、円さんのお誕生日だよ」と教えてくれました。その日は野口さんの42回目の誕生日でした。ですが残念なことに野口さんは7月から入院されていて、一緒にお祝いしてあげることができないね、と、中川さん。「早く帰って来ないかな」と、心配そうな様子でした。すると、中川さんは「そうだ！」と、周りを見て、デイルームにいた仲間に、「今日は円ちゃんのお誕生日だよ！お祝いしてあげよう！」と提案してくれました。その言葉を聞いたなでしこさん達は、口々に「円さん元気かな」「早く会いたいね！」と、盛り上がりました。そして、中川さんの「せーの」で、みんながハッピーバースデーを歌ったのです。

みんなの歌声とお祝いの心が、入院中の野口さんに届くといいな。みんな、野口さんの元気な笑顔を待っていますよ。
※編集注・現在、野口さんは無事退院され、皆と仲良く元気に過ごしています。



祭 祭 祭 祭 祭 平成29年度 祭 祭 祭 祭 祭

夏まつり



みんな大集合!!

シルバーさんも大集合!!

祭 祭

跡 跡 跡

〔7・8月〕

〔寄付〕

▽野口勇様 ▼芳野富美子様

▽橋爪八重子様 ▼篠田美次様

▽菅谷誠様 ▼小野口里子様

▽大谷伸彦様 ▼横山典雄様

▽飯島昭子様 ▼老岐様

▽倉嶋恵美子様

▽アサヒランドラズ様

▽鹿島アントラーズ選手会様

〔来園者〕

▽アットホームアンサンブル・ウイズ様 (演奏ボランティア) ▼羽生明義様 (絵画指導) ▼横田裕樹様 (会計監査) ▼永光パートナーズ 渡辺様、近藤様 (会計指導) ▼日立総合防災様 (設備修理) ▼アルソック様、㈱ケービーデバイス様 (防犯カメラ設置) ▼立岩建設様 (施設修繕) ▼潮来保健所 鬼沢様他 (聞き取り調査)

▽行方市役所 久米様 (認定調査) ▼聖徳大学 有馬ゆき様、清宮理菜様、飯塚愛美様 (実習オリエンテーション) ▼芳野富美子様 (契約) ▼島田久夫様 (契約) ▼高柳訓子様 (契約) ▼中村友信様、ウエルポート鹿嶋 小原様 (相談)

〔日中一時支援〕

▼本谷竜久さん (放課後支援)

〔短期入所〕

▽篠田純一さん

▽小沼好静さん

〔職場体験〕

▼平井中学校2年生2名 (8月1日〜2日)

〔7・8月誕生者〕

▽藤岡美智子さん (7月16日)

▽島田椎さん (7月17日)

▽竹添幸也さん (7月20日)

▽久保田雅子さん (7月22日)

▽星野敏行さん (7月23日)

▽大谷光明さん (7月27日)

▽野原みち代さん (7月28日)

▽沼田賢治さん (7月29日)

▽川尻勝久さん (8月11日)

▽島村龍馬さん (8月12日)

▽野口円さん (8月13日)

▽飯塚秀男さん (8月16日)

▽細田正弘さん (8月20日)

▽小沼好静さん (8月29日)

編集後記

秋です。新米の季節です。

米と言えば田んぼ。田んぼと言えばザリガニを連想する私です。ザリガニと言えば、長年疑問に思っている事があります。ザリガニって、見た目はエビに似ているのに、なんでカニって名前になったのでしょうか？私の祖父母は「エビガニ」と呼んでましたが、なんで「エビ」ではなくて「カニ」が残ったんでしょう？昔の人って、発想がユニークですよ。

そんな雑想を肴に新米を頬張っています。中台のごはんって、本当においしいですよええ♪ (チヨダ)

